

- 日 時 令和3年1月22日(金) 15:40~16:55
- 出席者 会長(学識経験者)、副会長(高大連携大学)、保護者代表、
地域住民代表者、その他学校関係団体代表者
事務局(校長、教頭、事務長、首席、教務部長、進路指導部長、生徒指導部長、
特別活動部長、保健部長)
- 内 容
- 1 校長挨拶
 - 2 会長挨拶
 - 3 学校現状報告
 - ア) 学校運営協議会への意見書の提出
令和2年11月20日より令和3年1月21日まで なし
 - イ) 令和3年度教育課程報告等(教務部)
 - ウ) 12期生進路報告(進路指導部)
 - エ) 生徒指導状況報告(生徒指導部)
 - オ) 特別活動関係報告(特別活動部)
 - カ) 保健関係報告(保健部)
 - キ) 令和2年度学校評価及び令和3年度学校経営計画(案)
 - ク) 学校教育自己診断結果報告
 - ケ) その他
 - 5 質疑応答・意見交換
 - 6 校長謝辞
 - 7 諸連絡

<質疑応答・意見交換> ○は委員からのコメント ⇒は事務局のコメント

*地域連携について

○コロナ禍で地域活動が低迷し、様々なイベントが中止されている。そのような状況においても、ボランティアなどで高校生が活躍する場は重要。地域が学校と連携するにあたり、窓口がどこなのかよくわからない。また、学校にとっても地域の窓口がどこかわかりにくいのでは。

⇒学校の窓口は教頭。そこからクラブや分掌など、関係教員につなぐことによって、具体的に連携を進めることができる。学校から地域へのアプローチを進めるにあたって、地域の団体から気軽に声をかけていただくと、活動の幅が広がる。先日も公民館イベントへの参加を呼び掛けていただき、美術部員が活躍する場を得ることができた。たいへん有難いことだと感じている。

○高校生が地域のイベントに出向いても、地域に任せきりでは高校生に面白さを感じてもらいにくい。地域も高校生の受け入れ方がよくわかっていないという実情もある。高校生に明確な役割があれば、動きやすいと思う。

⇒活動には顧問が必ず付き添うので、顧問が間に入れば高校生に役割をしっかりと認識させることができる。何か発表の場があるだけでも、高校生にとっては行った甲斐があるし、大きな喜びとな

る。

○学校と地域が連携してしっかり準備し、成果をフィードバックすることが重要。

*進路について

○AO入試合格者の退学率が、その他の入試（推薦・一般）に比べて高いと聞いている。せっかく大学に入っても、今年度の新生はコロナ禍でほとんどオンライン授業という状況。令和3年度の学校経営計画において自尊感情を育むことを謳っているが、大学入学後はどうなったか。大学とも連携し、卒業生の現状について確認することも大切ではないか。

*遅刻・欠席について

○遅刻数が学年によって大きく異なっている。特に3年生の遅刻数が多いようだが、これは例年の傾向か？

⇒今年の3年生は例年よりも遅刻・欠席が多いというのが実感。それがコロナ禍によるものか、学校の指導によるのかはわからないが、出席常ならないことが常態化しているのは、良いことではないと認識。

○入試前だからと休む生徒が多いようだ。学校に行ってもクラスに人が少ないので、きちんと出席している生徒が焦ってしまうと聞いている。受験勉強のストレスもあり、学校に行ってもいいのか疑問さえ抱いているような状態で、学校にいることが不安で苦痛だと聞いた。

⇒不安を感じさせるような状況になっているのはたいへん申し訳なく思う。学校にはさまざまな学びの機会がある。学校ならではの学びの大切さを、もっと徹底して指導するべきだった。

○学校へ行くことによって、リフレッシュしたり、友人との絆を深めたりする効果もある。コロナ禍でたいへんな状況にあって、学校がよく努力をされていることは、学校教育自己診断の肯定的評価からも見て取れるので、今後も頑張っていたきたい。

*学校経営計画及び学校評価について

⇒「主体的・対話的で深い学びの実現」72%を達成。来年度は75%を目標とする。「自分が決めた進路に満足」90%、「学校説明会の満足度」91%を達成。

⇒6月までの臨時休業期間を利用して教員のICT研修を実施し、意識が高まった。

⇒部活動加入率が上がり、勉強時間も増えているが、クラブと勉強を両立できているとの回答は減っている。生徒の理想が高くなっていることの現れではないか。

⇒「先生の指導に納得」52%で、7ポイント増。

⇒「信頼できる友だちがいる」の数値が減少したのは、行事がほとんど実施できなかったことも影響しているのではないか。来年度はぜひとも行事をカットせずに実施したい。

⇒来年度は、ICT機器を活用し、さらに魅力ある授業づくりをめざす。新学習指導要領の実施にも向けて、探究的学びの実現をさらに進める。

⇒開かれた教育課程実現のため、異校種の学校や企業などと連携した授業実施をめざしたい。地域連携の動きの中で、もっと学校外へ出て活動する機会を増やしたい。SDGsの視点を踏まえた国際交流も実現させたい。

○今年度の取組内容の中期的目標の一つである「学校の組織力の向上及び学校の魅力の発信」の中で、学校教育活動に対する保護者の関心を高めるとともに、趣旨や意義をしっかりと説明し、学校教育自己診断の回収率を高めることが、具体的な計画として盛り込まれていた。学校がしっかりと取り組まれた結果として、今年度の回収率が昨年度を大きく上回ったことは、保護者の学校に対する信頼度がアップしていることの現れだと思う。今後もどんどん数値が上がるよう、さらに取り組みを進めていただきたい。

*学校教育自己診断結果について

⇒多くの項目で昨年度よりも肯定的回答率がアップし、喜ばしい結果となった。教員の意識の高まりが、生徒にも伝わっている。

⇒今年度は行事がほとんど実施できなかったため、行事に関連する部分の数値が大きく下がった。運に左右される部分も大きく、1月末に延期した修学旅行も中止せざるを得なくなった。来年度は何とか行事を復活させたい。

⇒勉強時間が1日1時間以上という生徒の割合も増えた。今年度は1年生でも肯定的回答割合が高い。1年次から勉強習慣をつけさせる工夫が大切。

⇒キャリア教育やガイダンスについて、昨年度は担任との連携について課題もあったが、今年度はうまくできている。

*コロナ禍における教育活動について

○コロナ禍におけるたいへんなストレスが、生徒の遅刻・欠席の増加につながっているように感じる。指導の問題もあるかもしれないが、生徒たちに対する心のケアを十分にしてほしい。

○先生方もストレスが多いことと思う。地域連携など、土日の業務もある。働き方改革が謳われる中、負担感のないように取り組んでいただきたい。